



ちょっと谷戸沢

第2号
2014年5月

これはどっち？ タンポポを見てみよう

日本に生息するタンポポは、一種類ではないことをご存知でしたか。谷戸沢処分場では、日本に昔からあるタンポポと、海外からやってきたタンポポの両方をみることができます。



これらのタンポポは「^{そうほう}総苞」と呼ばれる、花を包んでいるところを見ると違いがわかります。

日本に昔からあるタンポポ（カントウタンポポ）の総苞は花を包むようになっているのに対し、海外からやってきたタンポポ（セイヨウタンポポ）は反り返っています。



カントウタンポポは谷戸沢処分場のグラウンド下の草原で春先にひっそりと咲いていますが、セイヨウタンポポは場内の草原ゾーンや外周道路脇など、様々な場所で見ることができます。

ちょっと

タンポポ雑学



タンポポは一見ひとつの花に見えるものが、じつは多くの花の集まりです。さらに、花びらに見えるところを観察すると、5枚の花びらが一つになっていることがわかります。

タンポポの英名：dandelion の由来

タンポポを観察すると、ある動物に見えてきませんか。大きなたてがみをもったライオンにそっくりです。「なるほど！花がライオンに似ているからダンデライオンと呼ばれるのか！」と思いきや、タンポポのギザギザの葉をライオンの歯に見立てたことからついたそうです。思わず花に目を向けがちなタンポポですが、名前の由来が葉だったなんてと思うと、地面にへばりつく葉をじっくりと観察してみたくくなりますね。

